

横浜市開港記念会館のあらまし



赤煉瓦の時計塔として親しまれているこの建物は、明治42年に横浜の開港50周年を記念して公募設計（コンペ方式）により建設され、大正6年6月に竣工しました。

大正12年の関東大震災では、外壁を残して屋根と内部を焼失、その後昭和2年に再建されましたが、銅製のドームは省略され、内装もやや簡略化されました。

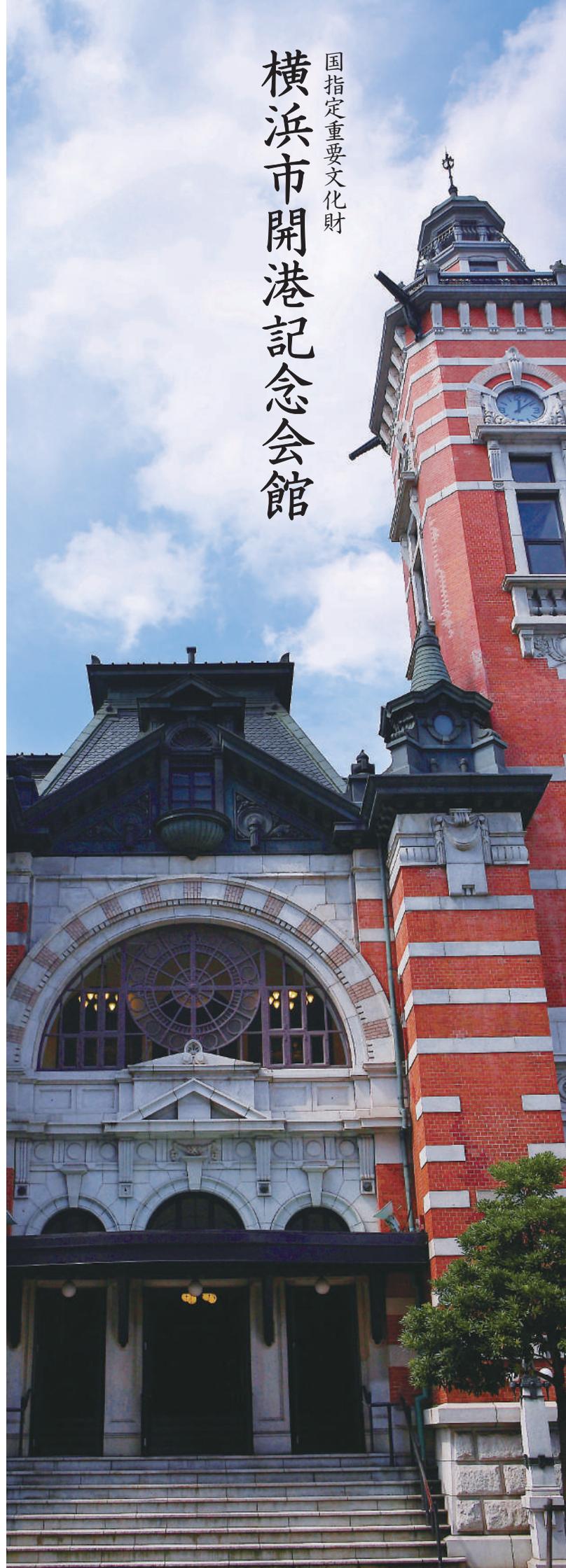
戦時中の被災は免れたものの、終戦から昭和33年6月まで米軍の接收を受けました。また、その後、老朽化のため保存か取壊しかの岐路に立たされたこともありましたが、昭和53年に修理、さらに平成元年にはドームが復元されて建設当時の姿がよみがえりました。現在は、大正期の代表的建築物として、国の重要文化財にも指定されており、中区の公会堂として利用されています。



- 明治42(1909)年 横浜開港50周年を記念して建設決定
- 大正3(1914)年 着工
- 大正6(1917)年 竣工、開館
- 大正12(1923)年 関東大震災によりドームと内部を焼失
- 昭和2(1927)年 再建ドームは省略、内装は全面改装
- 昭和20(1945)年 米軍による接收
- 昭和33(1958)年 接收解除
- 昭和34(1959)年 中区公会堂として開館
- 昭和53(1978)年 改修工事
- 平成元(1989)年 市政100周年・開港130周年を記念し、ドーム復元 国の重要文化財に指定
- 平成11(1999)年～平成12(2000)年 補修工事
- 平成21(2009)年 開港150周年を記念し、2階広間のステンドグラスを修復
- 令和3(2021)年～令和6(2024)年 保存改修工事 外装・内装を修復

横浜市開港記念会館

国指定重要文化財



講堂 (481名収容)



館内には、宇野澤組ステンドグラス製作所の作による開港当時を描いたステンドグラス（関東大震災後に復元）や、和田英作画伯の油彩画などが展示されています。

また、この地は横浜の町政をつかさどった横浜町会所跡、横浜商工会議所発祥の地、明治時代の美術家岡倉天心生誕の地で、それぞれの記念碑が建てられています。



開港記念会館の時計塔はジャックと呼ばれ、神奈川県庁本館の“キング”、横浜税関の“クイーン”と並び、横浜三塔として親しまれています。



2階広間ステンドグラス（呉越同舟 / 鳳凰 / 箱根越え）



ライトアップ（日没～22:00）



【アクセス】

- JR 京浜東北線・根岸線
「関内駅」南口から徒歩 10 分
- 横浜市営地下鉄
「関内駅」1 番出口から徒歩 10 分
- みなとみらい線
「日本大通り駅」1 番出口から徒歩 1 分

国指定重要文化財 横浜市開港記念会館

〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6番地 電話 045(201)0708 見学無料

開館時間 9:00～22:00（見学は10:00～16:00まで）

休館日 毎月第2水曜日（祝日・休日の場合は翌平日）

一般公開 原則、毎月15日10:00～16:00

- * 日頃使用中で見られない講堂1号会議室を公開しています
 - * 駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください
 - * 一般公開日は、事情により変更となる場合がございます
- <https://www.kaikokinenkaikan.com/>